

《参加者の感想》

◆岩屋中学校3年 S.I.◆

今回、このゆめ体験に参加して、自分の憧れに近づくことができました。中学生でヨーロッパに行けるということはないと思っていましたが、素晴らしい仲間と共に最高の経験をする事ができました。

出発する前まではかなり緊張していましたが、はじめての海外、そして同年代の友達とは初めての飛行機、ということもあり、とても楽しむことができました。ドイツの世界遺産であるレジデンツやオランダにあるナチュラリス生物多様センターなどはとても規模が大きく建物を見るだけでもワクワクしました。ナチュラリス生物多様センターでは、見たことのない動物や植物、そして文化などの展示がありました。本物の恐竜の化石をいくつも見る事ができました。文化については日本についての展示があり、オランダの方が日本をどのように思っているのか感じているのか、知ることができ、面白かったです。

食事は全体的に量がとても多いと感じましたが、本場のウィナーやチーズなどを味わう事ができました。ドイツのクリスマスの名物であるシュトーレンを食べることができたことも嬉しかったです。また、ドイツやオランダのシーボルトに縁のある場所を訪れ、長崎市との接点を知ることができ、自分が長崎市の市民であることに誇りを持つことができました。長崎について知らないことも多くあり、学ぶことのきっかけとなりましたし、長崎の事について現地で教えることができたのもとても良い経験となりました。特に私は薙刀を習っているため、日本にはこのようなスポーツがあると言うことも伝えました。現地の人に薙刀をカッコいいと言ってもらって頂き、とても嬉しかったです。

最も印象に残っている事はホームステイです。英語のみで生活することは初めてでしたが、自分の英語はホストファミリーに思いのほか伝わり、英語で話すことの楽しさを肌で学び、自信をつけることができました。そして短い間でしたが、スケートや地元の学校、牧場などやったことや、初めて行くような場所を訪れることができました。おにぎりや味噌汁を作り、朝ご飯として振る舞えた事は日本人として誇りを持つことができました。この体験に参加し、将来への視野が広がったと感じますし、自分が強くなったと心から思います。学校の中で積極的に意見を述べられるようになり、自分を成長させることができました。ホストファミリーとはまたオランダで会うことを約束したので、またオランダに行って、さらに詳しくオランダについて学びたいと思います。

今回引率して下さった、長崎市国際課の皆さん、先生、本当にありがとうございました。これからもこの経験を生かして、自分の目標に向かって頑張っていこうと思います。

◆小ヶ倉中学校3年 Y.M◆

はじめて海外に行くことになりとても不安が大きかったです。市役所の皆さんや共に過ごした中学生のみんなとワクワクしながら体験をすることが出来とてもいい時間を過ごすことが出来ました。これからも英語学習への興味を持ち学びを深めていくと共にまた海外へバスケ留学や語学留学などができるようコミュニケーション能力を高めたいと思いました。

私が今でも1番心に残っているのは、レジデンツでの全て英語での説明です。ナチュラルな英語はとても聞き取りにくく難しい単語が多いことでより外国語を覚えることの難しさがわかり悔しくもありました。高校ではネイティブの先生が主に授業をされるようなのでこの経験がいかにいいなと思います。笑が多い旅で卒業最後のとてもいい思い出にもなりました。短い間でしたがありがとうございました！

◆岩屋中学校 3年 Y.H.

私は初めて渡航しましたが、子どもゆめ体験として海外へ進出出来たことをとても誇りに思っています。私は英語が好きで渡航することが夢でした。しかし海外への知識は豊富ではなく、子どもゆめ体験で添乗員の方や他の団員と共に行くことは私の不安をぬぐってくれました。

事前研修では現地への知識が豊富な方の講義を受けることによってある程度の知識を取り入れたことで、現地の訪問先で、事前の説明と紐づけて理解でき、とても活かされていました。また、博物館、宮殿、市役所など訪れることで、現地の歴史を深く知ることが出来ました。英語やドイツ語、オランダ語が分からなくても翻訳してくれる方がいて、安心して研修に参加できました。写真でしか見たことのない建造物を目にするのが出来た時この上ない喜びを感じました。特にドイツのレジデンツと、オランダのナチュラリス生物多様性センターは印象的でした。レジデンツの豪華な外観や、金一色のゴージャスな部屋は写真では分からない美しさを感じました。ナチュラリス生物多様性センターの芸術的な内装であったり実物の恐竜の化石には、自分の心を躍らせるものを感じました。長崎と深く関わりのあるここでは、たとえ遠い場所であっても繋がるのが出来るのだと実感したのをよく覚えています。

ホストファミリーとの生活は、自分の価値観や世界への考えを大きく変えてくれました。元々、私は世界の国は日本とは全く違うのだらうと思い込んでいました。しかし、そこには、とても親切で私たち日本人と同じように楽しく日々を送っている生活がありました。ホストファミリーは私たちを楽しませようと多くのことを企画してくれて、三日間と短い間でしたがその中でもオランダの魅力にたどり着くことが出来ました。彼らのやさしさにはとても温かみがあり、人のやさしさは世界共通だと感じました。最終日に開かれたホームパーティではたくさんの方のホストファミリーの友人が訪れ私たちは交流する貴重な機会となりました。各々が料理を持ち寄り日本とオランダの食事交流を行いました。今までに食べたことが無い強い風味のあるものやなじみのある味のものもあり、とても楽しめました。中には日本語をしゃべれる人が何人かいて日本が大好きだと言ってくれた時には日本国民としてとてもうれしいことだと思いました。

もちろん言語、料理、行事と色々な所で日本と異なるところはたくさんありました。しかし人の温かさは変わらず、互いに共通の英語と言う言語を使うことで心を通じ合うことが出来るということが分かりました。これらの経験は、自分の自信にも繋がりもっと世界と関わりたいと思わせてくれました。私は将来さらに英語を勉強し、世界に貢献できるような仕事に就きたいと感じています。この経験は沢山の場所で活かされると信じています。

◆長崎南山中学校 3年 S.T◆

僕が、この子どもゆめ体験に参加して一番大きく感じたことは、全く自分の英語力がなかったことです。他の団員の子でとても英語を話せる女の子がいたけれど、自分の無力さを感じました。もちろんこの企画では、ヨーロッパの文化、ホームステイ先の家族の温かみ、他の団員との団結力、ドイツ・オランダの街並み、良さなど、大きなものを得ることができました。しかし、将来世界には英語が必須になってくると思います。なので今のうちから英語について深く考えておくべきだなと思いました。

1週間では足りないぐらい、とても楽しい研修でした。また、他の団員達や引率の方々も最高でずっと笑っていられました。もう一度あのメンバーで行けるなら、絶対に参加したいです。

◆海星中学校 3年 M.Y◆

私はこの経験によって、自分から積極的に物事に取り組むことができるようになりました。同じ目標を持った、いろいろな学校の中学生と協力して一つのことに取り組むことがとても楽しかったし勉強になりました。このプログラムに参加するまでは自分から人に話しかけたり積極的にものごとに取り来ることができませんでした。しかし、仲間たちと一緒にこのプログラムに参加したことで、たくさんの刺激を受けいろんな意味でとても成長することができました。外国に行くことが初めてで行った先の環境やその国の人々にもたくさんの刺激を受けました。ホームステイでは特に自分の知らない土地で自分の母国語でない言葉を使って 3 日間ほど過ごすことはとても勉強になりました。その中で、英語がなかなか伝わらないことのもどかしさなどを感じたことで、日本に帰ってからの英語勉強への意欲が高まりました。また、自分から積極的に行動しようという気持ちにもなりました。行くまでは、不安も少しありましたが、中学生のうちにこのような素晴らしい体験ができてとても良かったです。また行く機会があったら、もっと英語を勉強して参加したいと思っています。

◆長崎東中学校 3年 S.I◆

まずは私たちのためにこのような機会を設けてくださった国際課の皆様をはじめとするすべての皆様、ありがとうございました。私はこの経験を通して、オランダの「子どもの幸福度」について研究し、様々なことを知り、将来の夢を確固たるものとすることができました。

海外は、中学生である私にとって遠い世界です。そんな海外の情報ですら、今日ではグローバル化が進み、さらにインターネットの存在により、すぐに手に入れることができます。

しかし、そうしたインターネット上の文字の羅列から得られる情報と実際に現地で自らの肌で感じる情報とでは、雲泥の差がありました。例えば、後者は直感的な理解が可能である点があげられます。私はオランダの子どもの幸福度が世界一だということに興味を持っていたので、「子どもの幸福度」について調べるために今回この研修に参加させていただきました。研修の事前研究として、インターネットによる文献調査を行い、「多様で選択肢の多い、かつ補助の充実した教育」と「親の幸福度」が子どもの幸福度に影響していると結論づけましたが、これらは数値的なデータに基づくものであり、子どもの幸福度の本質の理解には及びませんでした。

しかし現地では、インタビューを通して生のオランダの人々の意見を聞くことや、実際にオランダの、子どもをもつ家庭にホームステイすることを通して、新たに「親や先生の、結果ではなく過程を大切に考える考え方」が子どもの幸福度に影響しているという結論を出すことができました。また事前研究の結論を、さらに裏付ける新たな根拠も導くことができました。そして私はこれらの、文面の意味を超越した理解が直感的にできたように思えるのです。この直感的な理解というのは、文献調査のみによってではなすことができなかつたように思います。同時に、子どもの幸福度の本質の理解に近いものだったとも思います。

情報社会に生きる私たちは、情報集めが簡単になった反面、インターネットに頼りすぎているように思います。しかし現地での調査は言葉以上の理解を私にもたらし、将来の夢を確固たるものとしてくれました。だから、インターネットに頼りすぎるのではなく、情報を確かめたり、体験したりする経験をこれからはより積んでいきたいと思っています。そうして将来の夢に、少しずつ近づいていきたいです。

16時間のフライトを経てフランクフルト空港に降り立った時、ひんやりとした空気と、ここに来たという感動で体が震えた。研修ということもあり、楽しさだけでなく緊張と責任も入り混じった気持ちで、それでもフワフワした状態でバスに乗り込み、窓の外のまだ真っ暗な街並みを見たとき、少しずつ今自分がどこにいるかという実感が沸いてきた。

私は、夏に学校で配られた「長崎市子どもゆめ体験」のチラシを見た瞬間、血が騒ぎ「絶対に行きたい!」という思いが押し寄せた。それまでの私は、英語が大好きで英語に対してそれなりの自信があった。特に、長崎市主催の海外の人との交流プログラムにも参加しており、そこで海外の人と英語で交流して会話を楽しむとき、言葉で言い表せないような喜びの感覚を味わってきた。それでも、ブリックホールの地球市民ひろばに行き、これまでの子どもゆめ体験事業参加者の方々のキラキラとした感想文を読んだとき、これは今までとは全然違う経験となると確信すると同時に、『自分は具体的に何をするために』参加するのか、という思いとは違う『考え』が沸き、単純に参加したいと思った自分に対しての疑念にさいなまれた。

8月、作文を何度も推敲して、面接の練習を必死にしたことが功を奏し、私は長崎市子どもゆめ体験のメンバーの一人に選ばれた。そしてその後、3回の事前研修に参加した。不安とは裏腹に他の仲間との絆を深めることができ、私は『将来何をしたいのかを見つけて夢を具現化するため』に参加する、という思いも固まってきた。

そして出発の日がやってきた。ここでは私が特に心に残ったことをご紹介しますと思う。まずはドイツ・ビュルツブルク市役所のことだ。私は代表挨拶を任されており、英語でシューハルト市長にご挨拶をした。その後、後で後悔したくない!という思いでシューハルト市長に疑問に思っていたことを英語でお尋ねした。その時のシューハルト市長の Nice question! や Your English is great! といった言葉や笑顔に自信をもらったことは今でも鮮明に覚えている。そして、ドイツの人の考え方や観光について英語で教えてくださった内容にも非常に感銘を受けた。この内容は私の今の都市開発という目標に大きな影響を与えている。また、オランダでのホームステイでは、第二の家族ともいえる存在を作ることができた。不安もあったが、常にチャレンジ精神をもって話し掛けて、もっと理解したいという思いを常に持つことで、多くの物を学び、楽しむことができた。オランダの子供たちはとても自律していて、好奇心旺盛だった。マーケットをみんなで食べ歩きしたり、マウリッツハイス美術館に真珠の耳飾りの少女を見に行き、解説を聞いたり（ホストマザーが美術館の職員の方だった）、オランダの学校の中に入ってホストファミリーと遊んだり、楽しい思い出は言葉にできないほどだ。私からも、感謝の気持ちを込めて一緒にホームステイした仲間と一緒におにぎりのみそ汁を作ったり、オランダの伝統料理作りを手伝ったりした。その中で、オランダの人の環境的な考え方や、相手のためにという考え方に憧れ、自分もそうなりたいと思うようになった。最後に、ホストマザーにあなたのおかげで、私たちのライデン市の良さを再発見できた、と言われた時には、うれしくて涙が出た。ちなみに今でもホストファミリーとメールでやり取りしており、先日、高校に合格したと送ったところとても喜んでくれた。書きたいことはまだまだあるが、字数の都合上書くことができない。

私は、子どもゆめ体験事業を通して大きく成長し、自分の夢を見つけることができた。最初の方の疑念とか不安とかはどこかに飛んで行って、今では私の心の中で美しく大きな思い出として色あせることなく輝いている。これができたのは日々の英語学習で英検一級を取得していたことと、それを使ってもっと知りたいと思う好奇心・チャレンジ精神が大きいと思う。高校・大学・その後の人生で、ここで学んだ事を大事にしていきたい。これから参加しようと思って今読んでいる人も、不安にならず、何にでも挑戦してほしいと思う。最後になりますが、私た

ちのこの体験は市役所の皆さん、両親、ドイツ・オランダの協力して下さった方々のおかげで最高の物にできました。本当にありがとうございました。

◆岩屋中学校 2年 N.Y.◆

最初、応募の案内を見たときに「行きたい!!」と強く思い、作文を書いて応募しました。事前研修から様々なことを知ったり、同じ中学生の子からも沢山の刺激を受け、毎回の研修が楽しみで仕方ありませんでした。現地研修では机の上の勉強だけでは得ることの出来ない沢山の学びと経験が出来ました。異世界に来たようで何もかもが違い、何をすることも新鮮でした。

言葉も、最初は自分の英語は間違っているかもしれない…と自信がありませんでしたが、現地の方は私の言葉をしっかりと受け止めてくれました。文法にとらわれず、自分の力で伝えようとする気持ちが1番大切だと私は考えます。文化も全く違い、現地の文化を知るとともに日本のことについて興味を持ってもらえたのもとても嬉しかったです。

シーボルトのことや、化石のことなどもとても勉強になりました。昔の長崎にあったものが大切に保存されていたり、長崎にあるレプリカの本物が展示されていたりして海外との繋がり深さに感動しました。

ホームステイも充実し、様々な発見がありました。短い時間ではありましたが、実際に家族の一員として手伝いをしたり、生活の中の文化を知ることができました。最初は緊張しましたが、ホストファミリーはとても心を開いてくれて全てが温かかったです。ホームステイ中に心に残った出来事があります。アムステルダム国立美術館に連れて行ってもらった時、お土産を買いたくて館内のお店に入り、商品を持ってレジへ行きました。

ですが館内では現金が使えず、現金のユーロしか持っていなかった私は買うのを諦めかけました。その時、見ず知らずの外国の方が「私が代わりにカードで払います」と言ってくれたのです。もしかしたら、払わせた後に私が逃げるかもしれない。なのに快く払ってくださり、現金も半分しか受け取られませんでした。胸がいっぱいになり、一緒に写真も撮ってもらいました。私もこのように誰かのためを思って、行動にうつせる人になりたいです。

この出来事の中に、「日本人」ということも大きく関係していると思います。沢山のひとと会話をすることで、「日本から国際交流で来ている」と伝えたらとても興味を持ってもらえます。どんなところなのか、自分もいつか行きたい!など、日本に興味がある人がたくさんいました。

ホストファミリーもその中に含まれます。家の中にも日本文化が感じられる飾りや、日本のアニメを見ていたりしました。そして、日本人と名乗るだけで信頼してもらえます。海外の方から見たら、日本はひとつひとつが素晴らしく、美しく、そしてカッコいいのだそうです。

海外の方からしたら私は外国人になります。今回、自分が外国人になって母国を見たときに、改めて日本の素晴らしさに気づきました。そして、日本人で長崎出身だということをととても誇りに思いました。今度は私が、その素晴らしさを発信していきたいです。

現地での自身の体験もとても貴重なものになりましたが、それと同じくらい、同年代の仲間と共に経験したことで得られたものもとても大きなものでした。同じ海外に行くということも、自分ひとりでは絶対に出来なかったことです。この体験を自分の夢の実現に活かし、更に視野を広げていきたいです。そして、次の世代へ国際交流の素晴らしさを伝えていきたいです。

関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

◆長崎大学附属中学校 2年 M. K. ◆

子どもゆめ体験に参加して、本当に良かったと心から思っています！

最初は初めての海外や、全く知らない中学生との活動ということで不安も大きかったです。でも、事前研修や現地研修を重ねていくたびにメンバーと仲良くなれたり、とても充実した時間を過ごしていることを実感できたりして、研修中は毎日新鮮な気持ちで過ごすことができました！

訪問した場所でも、長崎と関連がある資料があったり、世界遺産などの本物にふれたりできて、たくさん見て、感じることができました。

特にホームステイでは現地の生活をリアルに感じる事ができて、ホストファミリーとも仲良くなれてとても楽しかったです！！

生きた英語や、実際の現地の空気をめいっぱい学ぶことができ、国際交流についての関心が深まりました。

この子どもゆめ体験を通して、国際的な視野が広がったことはもちろん、こんなに広く、素晴らしい世界なんだ！と人生観が180°変わったと言っても過言ではないと思います。

ここまでたくさんサポートしていただいた市役所のみなさん、保護者のみなさん、そして出会えたメンバーに感謝でいっぱいです！

◆長崎大学教育学部附属中学校 2年 Y. M. ◆

一番最初、審査に受かった時は正直に言うと楽しみと不安が混ざり合っていました。海外で今までしたことがない経験をすることができる一方で、他の学校の人とコミュニケーションができるかが不安でした。でも、実際に会ってみて共通の趣味、それぞれの学校の話をしていくと段々と馴染んでいき、最後の方では参加者全員と話せるようになっていて面白かったです。

研修では、シーボルトに関する施設や長崎と交流して作業している場所に行き、長崎は国際的に友好的な関係で長崎の凄さを実感できました。ホームステイでは、言語的な壁で上手く関わることが出来ないが自分が持っている能力を使うことで最低限の会話ができ、いつしかゲームをして楽しんでいました。今回のような体験はそう簡単とできるものではないので、参加できてよかったです。

◆長崎大学教育学部附属中学校 1年 Y. M. ◆

私はゆめ体験のプログラムを初めて見つけた時、夢のようなプログラムだなと思いました。小さい時から海外に行ってみたいなと思っていた私にとってこんな良い条件で海外に行くことができるなら行ってみよう！と決心することができました。

ゆめ体験にも少し興味があるなら参加した方がいいと思います。英語力もちろん海外に行くには大切な要素だなというのは実際に行ってみて感じました。でも、英語力よりもこの事業に参加して得られるものはとても大きいです。私の場合は積極性を高めることができました。事前研修の際は緊張していて一緒に行くメンバーと話すこともあまりできませんでした。1週間一緒に過ごす中で絆を深めることができました。それは仲間同士だけにとどまらず、現地で出会った方などにも、(せっかくなんだから話してみよう！)と思えるようになりました。

これからこの体験に参加しようとしている方に伝えたいことは1つです！迷っているならとりあえず応募してみて欲しいということです。自分の貴重な経験を作る一歩をぜひ踏み出してみてください！

◆長崎東中学校 1年 I.K.◆

今回の事業に参加して、体験できたことはどれも楽しく、今でも印象に残っています。その中でも、心に残ったことは、ホームステイです。

それまでの体験での英語のガイドなどがとても難しく、うまく会話できるか不安でしたが、意外と聞き取れたり、会話できたりして楽しく過ごすことができました。ホストファミリーもスケートに連れて行ってくれたり、お土産を一緒に時間をかけて選んでくれたりして、とても親切な方でした。環境問題に関心が高い方で、気になっていた、ヨーロッパの環境問題について学ぶことができました。持っていたお土産や、つくった抹茶を喜んで下さってうれしかったです。これからもメールのやり取りを続けていきたいです。

また、一緒に活動したメンバーの皆とうまく話せるか不安でしたが、皆さん親しみやすく、話しながら移動するのは楽しかったです。ホテルの部屋とホームステイのペアが違ったり、グループ活動のメンバーが違ったりなど、いろいろとご配慮してくださって、最後には皆さんと仲良くなれたと思います。同窓会のようなことをして、これからも交流を続けていきたいです。

今回訪問した、ヴェルツブルク市役所やレジデントなど、どこも歴史が深く、勉強になりました。私は歴史が好きですが、世界史には目を向けてこなかったのが、英語の勉強と共に学びを深めていきたいです。

◆三重中学校 1年 Y.K◆

この体験を通して他校との関わり、他校の人といつもと違い環境で勉強ができたことまた外国へ実際に行って見て想像したこととは全然違う雰囲気、気候などを肌で感じて異文化に触れることでまた別の視点が生まれてとても充実した体験となり、現地研修の前に学ぶことで楽しみなどが芽生えここは勉強したとこだ!などとてもいい研修ができて外国人とも触れ合い言語の壁を越え、また国と国を越え人と交流を交わすことでそこでも新たな感情溢れたり実際にその土地を歩いてみたりして常に新たな感情が生まれる。そのような楽しみができるのがこの体験だと思いますそしてこの体験でほんとに素敵な経験が出来ました。とても良かったです!皆様有難うございました。